

平成 2 8 年第 5 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 8 年 1 2 月 1 3 日 (開会)

平成 2 8 年 1 2 月 1 5 日 (閉会)

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

○議長（小林信） 質問の通告がありますので、発言を許します。6番、大城戸ツヤ子君。

（6番 大城戸ツヤ子議員 一般質問席登壇）

○6番（大城戸ツヤ子） 市町村有償運送について、2点質問させていただきます。

現在、上小阿仁村には公的交通機関として、バス、移送サービス、こあに号、デマンド型タクシーがあります。

車がない、運転できない高齢者、交通弱者にとってはとても大事です。移送サービス協会は平成17年1月に設立されています。

また、こあに号は、平成21年10月に事業がスタートしています。特に、こあに号は、交通空白路線である上小阿仁から八郎潟駅は、秋田市への交通手段として大切な路線です。

今年3月26日にJRダイヤ改正がありました。理由を八郎潟駅職員に聞くと、「北海道新幹線開通に伴う改正です」と言われました。そう何回も改正はありませんということでありました。

この、こあに号の運行時間の変更は、JRダイヤ改正から6カ月後の9月からです。特に、朝便が役場前7時20分から7時となり、20分も早くなりました。改正前、7時20分始発は、八郎潟駅には8時47分の普通の電車に乗るようの時間設定でした。

今回、役場発、7時始発となったのは八郎潟駅発8時12分の快速に乗車、さらに新幹線の乗車に間に合うようにと聞いておりますが、本当ですか。

上小阿仁から八郎潟間の道路事情もよくなり、今では40分もかかりません。駅待合室での待ち時間の長いのには驚きです。

この運行時刻は、いつ、誰が、何処で、どのようにして決めているのでしょうか。

2点目です。

利用者実績を伸ばすためには、先ずバス路線ですが、今年10月1日に改正がありました。米内沢回り鷹巣行き。また、米内沢回り沖田面行きの本数が本当に減りましたことを、まず念頭においていただきたいと思います。

こあに号の利用実績を見ますと、平成26年度の運行日数は87日、利用者は178名です。平成27年度の運行日数は104日、利用者は240名です。人口の1割は利用しています。

収入では、平成26年度は17万8,000円、平成27年度は24万円です。この有償運送使用料の金額は村の会計に入ります。しかし、決算期に当たる9月に

なると、総務常任委員会では、この市町村有償運行委託料金が高いということが問題となっています。

平成22年度から平成24年度までは、運行形式が異なりますが、約300万円の委託料が支払われていました。今の運用形式に変えてからは約200万円です。

委託料を見ますと、運行管理上、人件費を占めており、運休日は待機料が含まれています。

利用方法として、朝便は前日の午後5時までに、また、昼、夕便の利用は出発時間の2時間前までに電話をすることになっています。それはとても利用者に対して優しい方法だと思っています。例えば、私の場合ですが、まずバスを利用して鷹巣へ買い物に出かけます。小沢田から鷹巣駅まで1時間かかります。バス代は1,000円です。

こあに号で秋田市へ買い物に出かけます。昼便、役場前11時に乗車して八郎潟駅には大体11時40分頃に到着します。11時52分の上り電車に乗り、秋田駅には12時25分頃に到着して、約1時間30分、費用は1,500円です。比較しますと、秋田市へは通勤圏であり、もちろん買い物にも便利な距離となっています。しかし、八郎潟発、上小阿仁行きが夕方5時30分となっています。ですから、秋田市で楽しむ時間は4時間ぐらいです。しかし、この5時30分の時間があって無いようなものなので、中途半端な時間設定になっています。

友人は秋田へ良く出かけますが、昼の便で行き、帰りは移送サービスを利用しているそうです。それは、秋田からつなぎが悪く、時間が中途半端に設定されているそうです。秋田市へ出かけて、仲間と昼食をとり、ショッピング、映画、散歩など、半日でも有意義な時間を過ごすことができれば利用者が増えると思います。

利用者を増やすためには、電車の到着時間との時刻をあわせるのはもちろん、運行時間をどのようにして決定されているのかを関連して伺いたいと思います。
○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 第1点目の時刻表の、いつ、誰が、どこで、どのように決定しているのかというふうなことであります。

これにつきましては、市町村有償運送こあに号の運行は、開始当初の運輸局への申請時に、村の公共交通会議で決定した時刻で運行を始めております。これにつきましては、八郎潟町や五城目町にあります病院への通院時間を優先に設定されたものであります。その後は、平成25年4月に定期便から予約制に変わっております。その時に変更をしております。

しかしながら、先ほど議員から言われたとおり平成27年度の利用者の実績では、八郎潟駅の乗り降りが162人で67%。湖東病院が56人で23%、利用者の

実績は、駅の方が中心になっており多くなっております。

そこで近年は、軽微な時間の変更であれば運輸局への変更申請が必要でないこともありまして、JRのダイヤ変更に合わせて変更を行っておりますけれども、これは、委託先の社会福祉協議会からの変更要望を村が承認したものであります。

今後も利用実態に、より即した時刻表を検討してまいりたいというふうに思っております。なお、時刻設定につきましては、秋田方面だけではなくて、逆の能代の方面のダイヤにも配慮しながら時刻設定をしておりますので、待合時間等については長くなったり短くなったり、高齢者の方々に配慮した対応となっております。

2番目の利用者の実績を伸ばすためにというふうなことであります。

これにつきましては、利用実績を伸ばす方策としまして、広報やこあに電話により今一度周知を行ってまいりたいと思います。村のホームページにもアップしておりますので、これも見ていただければと思っております。

高齢者の利用が多いわけですので、高齢者が集まる機会等でのPRもまた合わせてやらせていただきたいというふうに思います。いずれも、利用者の利便性を配慮しながら利用者にたくさん活用していただけるような対応をとらせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（小林信） はい、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、村長のお話を伺いましたけれど、本当に後ろ向きですね。村長は、広報とかこあに号とか、すごく皆さん読んでいたり聞いていると思いがちでしょうけれど、私も集落を回って歩きますと本当に浸透が鈍いです。それは、肌で感じて欲しいのですが、今、説明を聞きまして、委託している社会福祉協議会の方からの、そういう申請があったりということですが、私はそういうふうには聞いておりません。ましてや、今回は8時12分にこだわりますけれども、新幹線を利用する相手だということを知っております。しかし、9時何分の新幹線にどれぐらい乗って行っているかご存知ですか。村長が数字を言いましたけれども、私も平成27年度の実績で、朝の便110人利用しています。そのうちの84人は八郎潟駅まで行っています。ですから、そういう人達がすべて新幹線を利用しているのでしょうか。今、考えてみてください。7時20分出発していたのが7時になり、それが20分、朝の10分というのは、働いていると大切な時間です。それを20分早くして快速に合わせて、そういう取り組みをしています。本当に、これを高齢者のためとかとおっしゃっていましたが、私はそうは感じません。ただ、やらなければいけなくて合わせていると私はとっております。

私もこの前乗せていただきました。行ってきました。本当に待ち時間が長い

です。大体この設定をしている担当者、まず、このこあに号に1回でも乗ったことありますか。現場を知ることが本当に大事だと思います。高齢者のために組んでいるということだったら、ぜひ一回、何処に問題があるかぜひ乗っていただけませんか。机上だけではだめなのです。もっと村民に寄り添うということは、こういうふうに見て回ることも大事だと思います。次の質問にも関わってきますけれども、そういう意味ではもうチョッと時間を考えてみてください。

それに八郎潟5時半です。でも私達は予約をするとき5時半を守らなければいけないとなると、4時27分ぐらいの秋田発の電車に乗ってくるのです。すると5時が過ぎます。5時に到着したら予約していた運転手は良心的ですので、すぐ乗せて帰ってくれます。しかし、約束が5時半だからという、30分ぐらい待っていないといけないです。その5時5分、その前後にまた普通電車があります。そうすると5時37分ぐらいに着きます。ですから、7分ぐらいで利用できるのです。

また、新幹線に合わせているかどうかかわからないですが、本当に新幹線に合わせているとしたら、せび、こまち21号というので1時何分かの新幹線があります。夕方、秋田に着きます。そうすると5時半ぐらいの電車があります。すると、5時58分ぐらいに八郎潟に着くというふうになっています。

そうすると6時でも、運行時間が5時半でなくて6時でも、或いは、そういうふうで遠くのお客さんを迎えるための時間設定だとしたら、6時でもかまわないのです。でも、あまりにも焦点が、今、お話を聞いたらぼけていますよね。もうチョッと考えてください。

如何ですか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 議員から言われた内容を精査しまして、ダイヤ改正と合わせて利用者の利便性を図っていきたいというふうに思います。

1人の人に対して利便性を図るというのは、なかなか難しいわけですがけれども、できるだけ多くの人方が利用していただけるような対応をとらせていただきたいというふうに思っておりますので、今一度、現場等を精査しまして、検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（小林信） はい、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 1人のためと言って、私でないですよ。私は、例えば、こういう方法で利用していますということを提案したわけです。私のために動かしてくださいとは一言も言っていません。或いは、これから移住、定住で、お客様を呼ぶといったときに、或いはアトでお客さんを呼ぶといったときに、新幹線で、東京から乗ってきたそうです。でも、秋田に着き、或いはま

た、八郎潟に行ったときに、乗るバス、電車がないということを言っていました。私はそういうことも耳にしているので、ぜひ、受け止めていただきたいということお話ししているのです。

いつも、誰か、担当者に任せきりではダメなのです。利用者の金額が少ない、200万円のうち20何万しか入らない。170、160万円は持ち出しだということまで頭を抱えています。だったら、もうチョット利用者がしやすいように企画をしてください。時間をかけてください。それは無意味なことではないです。運転手さん達にも聞きました。だから、そういうことであれば頑張りますよというふうに言っています。だから、私は敢えて強調しているのです。

この市町村有償運送事業というのは、本当に大事な事業です。隣の北秋田市ではデマンド型タクシーとあって、市民病院へ、去年からやっています。また、来年1月には市内循環バスを走らせようとしています。

高齢者の運転者に事故が増えているため、運転する人に不安を抱えていることが増えていますので、高齢者に優しい運転、そういう車を提供しなければいけないと思うのです。ぜひ、考えてください。あらためてお願いいたします。

以上です。

○議長（小林信） 再々になります。答弁はよろしいですか。

（「いりません。」の声あり）

○議長（佐藤信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 次に、旧沖田面小学校グラウンドへのトイレ設置について質問させていただきます。

健康づくりからグラウンドゴルフは、全国的にとっても人気があります。また、グラウンドゴルフは観光産業にもつながると聞いております。

上小阿仁村老人クラブの方々が、グラウンドゴルフ同好会を作り、連合老人クラブ会では、会員の健康維持及び会員の交流の一環としてグラウンドゴルフを行っています。

また、上小阿仁総合型クラブスマイルもスポーツの楽しさやコミュニティづくりの場として、グラウンドゴルフ交流大会が年間実施されています。

旧沖田面小学校グラウンドは、クラブ会員が自主的に草刈りや芝生の手入れなどして、コース整備を行っていると同いました。今では、営林署関係の皆さんや役場OBの皆さんも使用するようになって、多くの大会が開催されるようになり、親交の場となっています。

10月29日、上小阿仁村老人クラブ連合会のグラウンドゴルフ大会が開催されていましたので、見学してきました。

会員達が互いに声をかけながらプレーを楽しんでいました。しかし、困ったことにトイレがありません。トイレに行きたくなったら、沖田面公民館まで行

かなければなりません。そのため、女性に呼びかけても参加する人が少ないそうです。男性は周辺を利用しているということでした。

こんな環境の中でグランドゴルフを楽しんでいるのですが、村長は、どう思いでしょいか。

村内の避難場所一覧表を見ますと、旧沖田面小学校が非難場所となつていません。また、避難場所の看板も立っています。

上小阿仁村は、以外にも災害が少ないように思われますが、災害は忘れた頃にやってきます。

ぜひ、合わせてトイレの設置が必要と思われませんが、如何ですか。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 旧沖田面小学校の施設につきましては、現在は倉庫として位置づけをされておりますけれども、例外的にグランドゴルフの同好会にグランドと野球部室の使用を認めております。

今後につきましては、現状のまま練習場として使用していただきたいというふうに思っておりますけれども、正式な村のグランドゴルフ場としては、上ノ岱のスポーツエリアを考えております。

今後、いろんな大会があるわけですがけれども、練習を含めて上ノ岱のスポーツエリアを使っていたらと考えております。ここには、トイレも整備されております。休憩所も整備されております。そして管理人もおりますし、いろんな形でいろんなスポーツが楽しめるというふうな上ノ岱スポーツエリアとなっております。

新年度からは、スポーツエリアの草刈り等を充実させ、常時グランドゴルフができるように努めてまいりますので、練習でも使っていただきたいと考えております。

グランドゴルフが、任意団体でありましたグランドゴルフ同好会の皆様のご尽力によって上小阿仁村でも普及し、老人クラブの皆さんや、先ほどお話されました役場のOB等一般の方々にも普及してまいりましたので、プレーする方々に最良の条件を提供したいというふうに思っております。

なお、上ノ岱スポーツエリアの総合計画の中には、当時はパターゴルフというふうな形での計画も盛り込まれておりましたわけですがけれども、今日のようにプレーする人もおらなかったことがありましたので、整備が不十分になっておった経緯があります。できれば、先ほども申し上げたとおり1箇所に施設を集約することで、利用者の利便性を図りながら、維持管理費の節減にも努め、第一に利用者に喜んでいただけるような施設整備をさせていただきたいというふうに思っております。

次に、避難場所の件ですけれども、避難場所としての位置付けとしましては、建物につきましては、建物の老朽化や電気、水道等のライフラインが整っていないこと、それから土砂災害の危険区域となっていることもありまして、平成27年4月発行の洪水ハザードマップからは除かれております。なお、建物の老朽化や雨漏り、水道管があちこち破れていますので、使えない状況となっておりますので、将来的には有利な事業等によりまして整備等、解体等も含めて整備を、これから検討させていただきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、上ノ岱スポーツエリア、多分テニスコートがあるところだと思うのですが、私は初めて知りました。びっくりしています。私の認識不足でしょうか、それは、まだ時間がかかりますよね。でも、あそこのグラウンドも村長もよくゴルフをしたかどうかわからないですけれども、見ていただいたと思っていますが、芝生はきれいに刈られていまして、それは昨日、今日にできたグラウンドゴルフ場だとは思いません。何年もかかって草を刈ったり、或いは個人的にもう自分達の庭だと思って、頼まれなくても手入れをしているのです。そういうふうに、私を含めてそうですが、やっぱり、モノをやるときは丁寧に老人の皆さんは作り上げていきます。ですから、それを、では上ノ岱に作るのだからそちらに向けてくださいというと、人情的にどうでしょうか。皆が、ハイ、分かりましたというので行くでしょうか。ましてや、遠いところですよ。そこまで行くでしょうか。私は今どういうふうにしていくべきか考えていますけれども、現在は、そういう意味では、村内の避難場所一覧表を見ても、村の情報として、やっぱりクリックすると村内避難場所一覧表というので載っています。それで沖田面地区にも、収容できるように人数を264名が収容人数というので出ていますので、やはりそれは危ないとして、これを載せておくのは問題があると思います。それにチャンと看板も建っております。

ですから、私は、それはいつになるか分かりませんが、これから補正を組んだり、予算を組んだりして、そういうふうにするとうちにできるものでもないですし、私は、ぜひ、あそこのグラウンドゴルフ場に、トイレを設置させていただければと思っています。私は、ただ、建ててください、トイレを作ってくださいというのではなくて、今、まさに新年度予算編成になっていると思います。トイレ1個設置にどれくらいかかるのだろうかと思って、上小阿仁村の業者に見積もりを取り寄せました。いろんなのがありますけれども、水洗トイレで1個10万円ぐらいからさまざまな価格であります。ですから、いろんな災害用のトイレなどありますけれども、ぜひ、考えていただきたいです。

10万、20万で、そんなに村の予算にひびくものでもありません。如何ですか。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 利用者の利便性をぜひとも図りたいというふうなことが根底にあります。当初、グランドゴルフ同好会の方々に、任意の団体でありましたけれども、グランドが草ぼうぼうで使われていないというふうなことがありましたので、私達に使わせてくださいというふうなことでスタートしたと聞いております。

その後、会員の方々の努力によりまして、いろんな方がたくさんやるようになって大会も増えてきたということがありますので、やはりキチットした整備をされた場所で、施設のキチットしたのあるところで、やはり楽しいゴルフをしていただきたいというふうに考えております。できれば、今の場所については練習等で使っていただいて、大会等につきましては、やはり休憩所もしっかりとした、トイレもしっかりしたのがある、管理人もおられる、そうするとトイレの清掃等もキチットやられていますので、そういうきれいな利便性のあるところで、ぜひとも楽しいプレーをしていただきたいというふうに考えております。

確かに、今、予算編成をしている最中でありまして、10万円というふうなことで、村にとっての10万円という額については、どういう見方をすればいいのかよくわかりませんが、1円たりともこれは大切なお金であります。税金でありますので、いろんな意味で皆さんが、ご了解が得られるような形で、皆さんに認められるような使い方をさせていただきたいというふうなことであります。

ですから、トイレ等については今後もう少し検討させていただきたいと思っております。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） いつも村長は、検討、検討と言いますが、その検討が長いので、それはいつまでですかと、本当は聞きたいのですが、上ノ岱にそういう予定をしているとか、それを含めれば、皆さんで考えなければいけませんので、追求は止めますけれども、でも、私は1個10万円とそうふうに価格を示しました。それが高い安い、1円たりとも大事にしなければいけない、それは分かります。しかしですよ、私達、老人、高齢者、村民はなるべくお医者さんにかからないように、あるいは、介護保険料に頼らないように、自分の健康は自分で守ろうと努力しています。ですから、そういうグランドゴルフ場を自分達で作って、それで健康につながると思って楽しんでいるのです。

それが、2年、3年後といたら、歩けなくなったり、そういう人も増えてくると思います。私は別に簡単に10万円と言ったとは思っていません。30人、

50人といっ、そういうので10万円使ったら病気になる人が減ってくると思いますので、そういう意味で見積もりをいただきましたので敢えて低い単価で言いました。

ですから、利用者、利便性、それで10万円は、大城戸、軽々しく言うなというふうなことかもしれませんが、私は、村民目線の、要するに村民の立場に立って、村民ファーストの目線で申し上げているつもりなのです。

よろしくお願ひします。回答、いりません。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 次に職員の資質向上について3点質問いたします。

これまで、職員の人材育成について質問してきました。公務員としての基本的な研修にとどまっていることも判っています。高齢化が進む中で、村民に寄り添うには職員はどうすべきですか。

まず1点ですが、村民との対話と連絡方法、それは電話でしょうか、それとも通信ですか。職員が集落を回っていますか。

昨年ですが、議会で、上小阿仁村集落担当職員設置要綱案が示され、可決されました。目的は集落と行政とが円滑に連絡調整を行うため、各集落に、その集落を担当する職員を配置し、集落と行政とが連携を図り、地域の活性化に資することを目的としていました。

それから1年、集落毎の担当職員を配置し、集落の要望や意見、質問、相談など実施したのでしょうか。お聞かせいただきたいと思います。

2点ですが、日常業務における点検についてですが、職員は課毎に業務を担当していると思います。パソコンでの仕事量は増えたと聞いております。また、よく職員が少ないと耳にします。

例えば、基本的な簡単な業務のことですが、電話の対応、会議の進行方法、お金の支払いの振込み、明細書の送付方法、アンケートを依頼した時に返信用封筒の同封、それぞれの担当者の仕事確認、また合わせて、今回のように議案の訂正がすごく多いです。誰が点検しているのですか。

これは本当に初歩的で個々のスキルの問題だと思ひますが、これらの業務を誰が点検して改善を進めているのでしょうか。

3つ目です。職員のやる気、元気についてですが、広報5月号には新規採用職員2人が紹介されていりました。村のために、村民に寄り添うコメントでした。志を持って上小阿仁村の職員として挑戦してほしいと思ひます。

12月4日、上小阿仁村小中学校のこあに発表会が開かれました。キャリア教育ということで地域に根ざした学習を通して村にもいくつかの提言がありました。それらを実行するには、職員同士の活性化が必要です。20代、30代の職員の皆さんの元気がないと進みません。時にはお酒を酌み交わしながら、業務改

善や村の課題を共有してアイデアを出し合うなど、そんな環境を作ってみてはどうでしょう。また、努力したものには表彰することによっても励みになると思います。

職員のやる気、元気、どのように育てるのでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（小林信） はい、答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 先ず最初に、村民との対話と連絡方法というふうな件であります。

住民の皆様のサイドに立った対応を職員一人ひとりが心がけることで、いろいろな場面において、より良いコミュニケーションができると考えております。

また、先ほど議員から言われましたとおり各集落に担当職員を割り当てることで、各集落の要望等を把握する体制を早急に取りたいというふうに思っております。

また、集落行事等への村職員の参加が少ないというふうなお話もお聞きしておりますので、今後は、集落の職員には積極的に参加をしていただけるように、地域に密着した行政になるように指導してまいりたいと思っております。

2つ目の日常業務における点検ということでもあります。

村では、課の中に班制を導入して日常業務に対応しておりますけれども、班長が班毎の第一義的なチェック機能を果たし、課長が最終の点検を行っておりますけれども、よりチェック機能を高めるために、先ほど議員から言われたとおり課内間の対話を活発にしながら、情報の共有をすることが大切であると考えております。

そういう意味では、民間等でよく言われております報告、連絡、相談の報連相を徹底しまして各課の横の対応等、縦の方向のスムーズな報連相の意思統一を図ってまいりたいというふうに思っております。

また、会議等に当たっては、事務局内の事前の共通理解のもとで開催をさせていただきたいと思っております。

やる気、元気につきましては、役所全体、課全体、班全体の目標を共通認識の下で明確に持つことによって、同じ目標に向かうことができれば、やる気も違ってくると思っております。

今年の8月1日と2日には、「住民満足度県内一の自治体を目指して」と題する研修をヒューリッドコンサルティング社の北垣先生を村に招きまして全職員を対象にして研修をやらせていただきました。

組織運営の原点、村の現状と住民の期待、あるべき姿と現状、対話ある職場について、ワークショップを中心に意見を出し合っております。現状の業務内

容を検証して、それぞれの職場でいかにすれば、いかに良い、いかに相互に検証中に話し合いをし、考えをさせていただいております。

また、これまでもそうですけれども、秋田県による全県からの要望による研修についても役職毎に研修をさせていただくと共に、村独自の職員の自主研修等では、今回はチップボイラーに関する視察を中心に企画をしていただきまして、岩手県の方へ研修を11月28日、29日に実施しまして、8人が参加をしております。

また、12月4日から6日にかけては、岐阜県高山市の方に、社会福祉協議会の視察ということで4人が参加しまして、冬期間における老人が宿泊する施設の視察研修をしております。研修の成果を業務に今後反映することで、これまで以上の住民サービスの向上につながるものと思っております。

研修による効果が目に見えてくるには今しばらく時間がかかると思っておりますけれども、民間のサービス精神のもとに住民の目線で、住民の考え方に立った対応するために、民間への研修も今後検討し、研修によりまして意識の改革を図ってまいりたいというふうに考えております。

先ほど議員から言われたとおり、お酒を交えての対話というふうなこと、一生懸命頑張った職員に対しては表彰規程等も含めて、今後、いろんな形で検討して、住民の方々にご迷惑のかからない、住民の方々から喜んでいただけるような職員になるように、今後、努めてまいりますのでよろしくお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、様々な研修をさせているということを目にしました。情報としては入っているのですけれども、ただ、質問の中に集落担当が全く活動させていなかった。もう1年になります。当時、すごく村長は燃えていましたから、とにかく、これを進めなければいけないというので、こんな立派な案を、集落活動報告書とか、いろんな処理報告書とか、こういうふうに出しています。

ですけれども、何ひとつ動いてなかったのではないですか。私は、これで住民、村民に回って歩いて、それを取り上げる、本当の良い案だなと思って、その当時は素晴らしいことだと思って記憶しております。

ですから、早急に動くようにしてください。それから、今、立派な研修は8月1日、2日、それもワークショップをして、やったというのを知っています。しかし、それはあまりにも県内一番になるとか、そういうことではなくて、私は足元を言っているのです。先ず電話のかけかた、先ず自分の名前を言う、それが一番だと思いますけれども、それで質問したら、その人が見つからないので、右往左往して、それに何分もかかる。そういう電話の仕方もあります。

それから。いろんな会議の進め方、それは私達一番大事な問題なのです。ですから、立派な講師を呼んできて、ワークショップして、これはという空論をやっても、それは2、3年後にやってくださればいいと思うのですけれども、そういう会議の進め方、或いは、お金とか言いますけれども、私の問題ではありません。回った歩いたら、こういう事業をやった、でもお金を振り込まれた、でも、それは何の振込みだか、分からないという村民の人がいました。でも、これは基本的なことだと思うのです。いろんな村民の人は村に協力しようと思って、その報酬をいただくということで協力はしていないと思いますが、その中に報酬が伴うとき、それをどういうふうに、村民に振込みを説明するか。やっぱり基本的には明細を送るべきことだと、基本的なことだと思います。

それから、アンケートを依頼したけれど、では、それは良いか悪いか、電話で答えをするべきものではありません。理由を、協力、いろいろなことを書いてください、といったら届けなければいけないでしょ。そうしたらやっぱり不便です。それだったら、そういう封筒を同封することが、私は優しさだと思います。でも、そういうことも抜けている。ですから、今、班長が、課長がというふうな段階がありましたけれど、それはどうでしょうか。良くうまく回っていますか。私からみるとチョッとそれは足を運ぶようになってから、目に見えるものなのですけれども、私はどうも認識不足だと思います。

いろいろ皆ベテランです。新人だったらいいです。1年生、2年生の人達にはそんなふうに言うつもりはありません。でも、今言いました30代、そういう人達の中に何人もいるということを感じて指導してください。お願いします。

私は、もっと村民と対話をするために提案があるのですけれども、まず、村民に職員は顔を覚えていただくことが大事だと思います。職員は今、写真付きの名札を下げていますが殆ど見えません。だって話をするとき動くものですから、字も小さいし見えません。私は、それはどうかなと思うのです。県とか、そういう職員間でこれをしなければいけないというルールでもあれば別ですが、ぜひ、ネームプレートを貼っていただくこと、名前だけでいいと思いますけれども、そういうふうな方法或いは庁舎入口に配置図が貼ってありますから、何処に行こうかというふうに見ている人は殆どいないと思います。

ですから、各カウンターのところの名前、配置図の中に担当の名字だけでもいいです。人事異動で替わるかもしれません。でも、たいしたことないでしょ。そういうのを各カウンターに貼って、上からビニールシートを置いておけば判ります。ですから、そういうことをしていただければ、もっと、村民との対話が出てくると思います。

それから、住民福祉課はあります。しかし、その中に健康推進班はありますけれども、健康推進班の説明は書いていません。柱で判りにくいのです。そうい

う案内或いは地域包括支援センターは、多分、健康推進班だと思いたすが、そういう看板がありません。やっぱり、村民に優しく判りやすくできるというのは、そういう工夫が大事ではないではないでしょうか。電話でもよく何処何処に行けばいいのかと聞くとき、説明も困ると思いたす。それはどうですか、村長。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） いろんな形でご指摘をいただきました。本当に基本的なものなのでから恥ずかしい限りであります。一から始めさせていただきたいというふうに思っております。

いろんな形で職員の中にはいろんな職員がおりますので、できるだけ良いところを伸ばしながら、欠点を補う形での対応を、しかしながら、基本的な部分についてはキチット一般社会人として身につけていただくことは、何歳になってもやるべきことはやらなければいけないと思っておりますので、歳に関係なく再度教育を、研修をさせていただきたいと思いたす。

それによって、住民の方々にご迷惑のかからないようなことにしたいと思っております。いずれ、いくつかご意見、ご指導がありましたので、それについて、早急に解決をさせていただきたいというふうに思いたす。

よろしくお願いたします。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、提案したものはそんなにお金もかかりません。ぜひ、判りやすく、役場に来て、皆さんの顔が見えて、元気に働いている姿を見ると、村民は元気をもらえるのです。それが、パソコンに座っていて誰が来たのかも判らず、何かそこで終わっている。それには全然コミュニケーションが取れません。わいわいやれというわけではないですけれども、何か無心に何にも力なくやっている元気がない人達の姿を、私はいつも感じています。

ですから、もう少し、挨拶をしまししょうとか、これは別に村長とか或いは副村長が言うべきことでもないと思うのです。常識だと思いたす。常識人間が役場に採用されているのだと思いたす。だから、それは本人次第だと思うのですけれども、ある意味でそういうふうな環境づくりをすることが一番大事だと思うのです。やっぱり村長、副村長或いは課長達が生き活きと働いていたとすれば、それは職員にも響いてきます。ですから、そういう意味では、まあ、人数が少ないので仕事が多くてゆとりがないといえればそれまでですけど、でも上小阿仁だけではないと思いたす。どこでも、それは同じだと思いたす。

私は、そういう意味で、今日、出席していただいている、課長以上の皆さんが生き活きと活躍されることを願っているのですけれども、特に、若い力が必要です。コミュニケーションの取れる職員が本当に少ないと思いたませんか。そ

これはやっぱり繰り返したと思うのです。しゃべれない人間もいますけれども、ああいう小中学校のこあに発表会を見ると、皆立派に発表しています。ですから、多分そういう場を与えてないのではないかというふうに私は思っていますので、ぜひ、戦力のない職員がいらっしゃる、いらっしゃらないは別として、職員で、税金をもらって働いてわけです。さっきの10万円の話ではないですけども、本当に税金で皆さんは、私達も含めて働いてわけですから、そういう意味では戦力になる職員を、村長は育てて行ってほしいと思います。

そういう職員がいないと、村長も、そういうふうに公約のことを進むことができないと思います。ぜひ、叱ることではなくて育てて欲しいと思います。

それで、最後ですけども、現状維持は衰退である。その言葉の発信者は東京都知事小池百合子さんです。ですから、ぜひ、私は、現状維持ではなく、それ以上に前へ進んでいただきたいと願っています。さらに、都民ファーストとよく東京都小池知事が言っていますけれど、ぜひ、村民ファーストで頑張りたいと思います。

以上です。

○議長（小林信）　これで、大城戸ツヤ子君の質問を終わります。